トチカガミ科 イバラモ属

イトトリゲモ（糸鳥毛藻）

Najas gracillima (A.Braun ex Engelm.) Magnus

レッドリストの位置づけ　千葉県 B　環境省 NT

自生環境

水田、ため池など

原産地

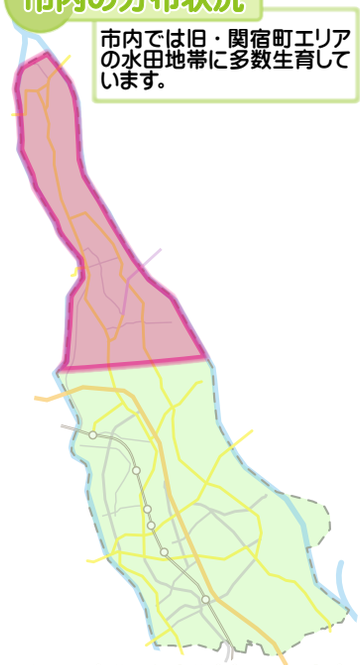
日本在来

生育を脅かす要因

除草剤や水田管理法の変化（特に水を抜く時期）によって、全国的に激減しました。市内の自生地では、水田がこのまま維持されている限りは、特に問題はありません。

市内の分布状況

市内では旧・関宿町エリアの水田地帯に多数生育しています。



特　徴

- 水田やため池に生える１年草です。 株の寿命は短く、 ６～7月ごろに発芽した後、 短期間で開花・結実を済ませ、 稲刈り前にはタネを残して枯れてしまいます。
- 水底の泥の中に根を下ろしますが、 まるで藻のように、 一生を水中で過ごします。 茎はすぐにちぎれますが、 ちぎれてもそのまま生育可能です。 ただ乾燥には極端に弱く、 水から出した途端に傷んでしまいます。 そのため、 タネを残す前に田の水が落ちると、 次世代に命をつなげずに絶える原因となります。
- 葉のわきに雄花が１個、 雌花が２個、 同時につきます。 タネはうすい果皮に包まれた状態でふつう２個ずつつきます。 果皮をむいたタネには、 横長の網目模様がありますが、 この模様はトリゲモの仲間の重要な識別点の１つです。

藻のようだけど藻ではない

イトトリゲモは、名前に「藻」とつく上に、植物体が水中にあるため、一見すると藻類（いわゆる藻のこと）のように感じてしまいます。しかし、目立たないながらも、きちんと花を咲かせタネで増えるれっきとした「植物」です。じつは藻類は、もはや植物でもなく、「原生生物」と呼ばれるくくりになります。なお、一生を水中で過ごし、藻のように見える植物のことを「沈水植物」と言います。

わぴちゃんねる　千葉県野田市の植物を動画で紹介！

https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBJegnWATWd-UZsNzCA